

## II. 大台ヶ原歩行者行動分析調査結果

### 1. 調査日の設定と調査地点

大台ヶ原の利用コースの中で人々が休憩や観察のために滞留する地点において、利用者の多い時期にどのような利用がされているのかを把握するため、各地点において30分おきに人々の行動の様子を定点観測した。

調査日と調査地点

調査日	設定の理由 →調査結果の取扱い	調査地点
8月16日 (土)	盆休みにかかるピーク調査として →当日は午前中雨天のため例年より利用者は少なく、ピーク時の悪天候日のデータとして取り扱う	日出ヶ岳、尾鷲辻、牛石ヶ原、大蛇嶺、シオカラ谷、西大台
10月11日 (土)	紅葉シーズンのピーク調査として →当日は終日雨風が強く、ピーク時の悪天候日のデータとして取扱う	日出ヶ岳、尾鷲辻、牛石ヶ原、大蛇嶺
10月18日 (土)	紅葉シーズンのピーク調査として →当日は全般に天候に恵まれピーク時のデータとして取扱う	日出ヶ岳、牛石ヶ原、ナゴヤ谷

### 2. 調査結果の概要

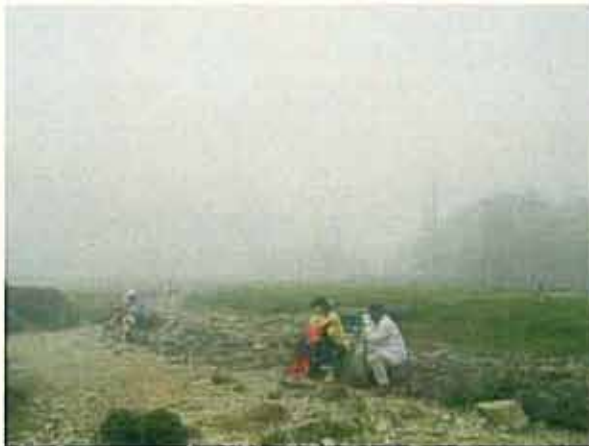
- ・大半は東大台を日出ヶ岳、正木ヶ原、牛石ヶ原、大蛇嶺を周回利用。
- ・主要な滞留箇所では正午前後を中心に休憩、食事等の利用が増加。歩道周辺の倒木や丸太ベンチの利用率が高く、座りやすい休憩場所へのニーズがうかがわれる。
- ・全体に天候が利用に大きく影響する。悪天候では歩かずに帰る人も多い。歩道外への逸脱、ペットの持ち込みなどは悪天候時には減少するが、コンロの使用は天候に関わらずみられた。
- ・平成14年の調査後にロープや制札が整備された箇所では歩道外への立ち入りの大幅な減少が観察されたが、利用ピーク時間帯を中心に一定の立ち入りが見られる。
- ・西大台は駐車場から開拓分岐、展望台までを往復する利用パターンが多い。また、大台教会のみを利用する利用者や午後や悪天候時は様子見程度に歩いて戻ってくる利用者も多い。
- ・西大台は東大台に比べて利用者は少ないが、バスツアーによる団体利用もある。利用者層は、東大台のようにハイヒールやスニーカーの利用者は見られないが、犬連れや歩道外への逸脱などもみられ、マナー面での差異は見られなかった。

### (1) 8月16日(土) 観察調査結果概要

調査日は、盆休みにかかるピーク調査として設定したが、当日は早朝から小雨が降り続き気温も肌寒い天候で、駐車場周辺で売店等に立寄るのみで諦めて帰る利用者も多く見られるなど、例年より散策利用者は少なかったため、ピーク時の悪天候日のデータとして取り扱うこととする。

#### ◆牛石ヶ原

- ・平成14年度の調査ではササ原に座って昼食をとるなど比較的長時間の休憩をする利用者と、歩道外のササ原を歩く利用者、「牛石ヶ原」の看板前で記念撮影のため歩道外に立ち入る利用者が多く見られたが、今回はこれらの課題行動はほとんど確認されなかった。これは調査日の天候が悪く、利用者の絶対数が少なかったこと、また地面が濡れているので座りにくいことが原因であると考えられる。
- ・多くの利用者は神武天皇像～牛石のあたりで一旦立止まって説明版を読んだり、歩道内で若干の休憩をするが、それ以外の場所では立止まることもなく歩いてくことが多かった。ただし、午後になって霧が晴れてくると「牛石ヶ原」の看板前で記念撮影のため歩道外に立ち入る利用者もみられるようになった。



このように座る人が多い(写真左端が牛石)



昼過ぎの写真であるがササ原に座る人はいない

#### ◆大蛇峠分岐

- ・平成14年度調査では、分岐のため小休憩をする利用者と、周辺の岩場や倒木を椅子にして昼食をとるなどの比較的長時間の休憩をとる利用者が多く見られたが、今回の調査では利用者の1割程度が休憩を取る程度であった。
- ・ただし、暖かくなり始めた昼過ぎからは比較的長い時間の休憩を取る人が増え始め、それらの人は岩場や倒木が多少濡れていても腰をかけていた。



歩道近辺の岩場・倒木で休憩する利用者



#### ◆日出ヶ岳

- ・日出ヶ岳山頂には新しく展望小屋が整備され、その周囲には腰をかけることのできる丸太が設置され、さらにロープや立入禁止の制札が新しく整備されていた。
- ・今回の調査では午前中の雨風と霧、昼過ぎからは霧のため、ほとんどの利用者は展望台の1階部分で10分前後の短い休憩を取って下山していった。
- ・ただし、昼前後には気温が上昇し、時折日が射す時間帯があり、この時間帯に訪れた利用者は丸太ベンチに座ったりゴザを敷いて昼食をとる姿が確認された。
- ・平成14年度の調査で見られたような課題行動はほとんど見られなかったが、天候による影響が大きいと考えられる。

#### ◆尾鷲辻

- ・朝から小雨が続き肌寒い天候ということもあり、多くの人が雨をしのぐ休憩場所として東屋を利用していた。
- ・常時1～3グループが利用していたが、込み合うというほどではなかった。休憩時にはタバコを吸う男性が目立ったが、吸殻を捨てる人はおらず、吸殻は携帯用灰皿などで持ち帰っていた。
- ・昼頃には弁当を食べるグループが何組か見られ、気温が上昇してきた午後には東屋で休憩を取らずに通過するグループが多く見られるようになった。



東屋で休憩する利用者

#### ◆シオカラ谷

- ・今回、夏期調査ということでシオカラ谷のつり橋付近での利用者の行動を定点観察した。
- ・早朝より小雨続きで気温も肌寒く、利用者もそう多くはなかったが、来訪者の半数ほどが河原に降りて水浴びや休憩、食事をとる姿がみられた。
- ・来訪者、河原へ降りる人はともに昼過ぎにピークとなり、最大6組16人が河原に滞在する状況が確認された。



ピーク時の河原の様子



水浴びを楽しむ子供たち

◆西大台（全体を移動しながらの観察記録）

- ・平成 14 年度調査の対象外であった西大台の利用実態を把握するため、大台教会分岐点で利用ルートの聞き取り調査を行うとともに、西大台の周回ルートを移動しながら観察調査を行った。
- ・調査当日は天候に恵まれなかったこともあり、西大台方面へ足を運んだ利用者の大半は教会までで引き返したり、ナゴヤ谷やセツ池あたりで引き返す利用者が多く見られた。
- ・開拓分岐や展望台まで歩いたことを確認できた利用者はわずかに数組であった。これらの利用者には東大台のような気軽な服装の利用者は見られなかったが、1 組は犬を連れて歩いており、1 組は 70 人程のツアー団体で一部の人は道をショートカットしてきたという話をしているなど、西大台においても利用者のマナーの向上は重要な課題である。



犬を連れて歩く利用者



## (2) 10月11日(土) 観察調査結果概要

調査日は、紅葉シーズンのピーク調査として設定したが、当日は一日中雨風が続き、じっとしていれば凍えるような寒さで、東大台、西大台ともに利用者は少なかった。このため、調査結果は、ピーク時の悪天候日のデータとして取扱うこととする。

### ◆牛石ヶ原

- ・8月の調査時と同様に天候の影響もあって、平成14年度の調査でみられたような課題行動はほとんど見られなかった。確認された課題行動は「牛石ヶ原」の看板前で記念写真を撮るための立ち入り(数名を確認)をはじめ、歩道外への立ち入る行動であった。
- ・利用者は少ないながらも1時間に20人ほどの往来があり、大半は防水加工の登山ウェアを着用した利用者で、軽装の人も雨カッパを羽織るなどの対策を立てて散策していた。
- ・来訪者の6~7割が神武天皇像の前で足を止めて鑑賞したり解説板を読んだりしていたが、腰をおろして休憩する者は見られなかった。



大半の利用者は神武天皇像の前で立ち止まって休憩



解説板に目を通す利用者も多くみられた

### ◆大蛇ヶ分岐

- ・天候が悪く利用者は少なく、ようやく午前10半頃から利用者が増え始め(30分間に延べ15人程度通過)、昼過ぎにピーク(30分間に延べ30人程度通過)となった。
- ・多くの方が大蛇ヶへ足を向わせるが、リピーターと思われるグループのなかにはどうせ何も見えないからと大蛇ヶに向わない利用者も比較的多く見られた。
- ・また、足元が濡れているためか、ここで休憩を取る人は少なく、休憩するにしてもルート確認等のため立ち止まる程度がほとんどで腰をかけて休憩する利用者は調査時間中2組のみであった。



座って休憩する人は稀にしか見られなかった

#### ◆尾鷲辻

- ・朝 9 時調査開始時より常時人の往来が見られ、午後 3 時まで延べ 650 人の通過を確認した。
- ・午前中は多くの人が雨しのぎや食事のために東屋に立寄って休憩するものの、午後になると時間を気にしてか、すぐ出発する人や、小屋で休憩せずに通過する人が多くなる傾向は 8 月調査と同様であった。



東屋には雨しのぎや食事のため多くの利用者が立寄っていた

#### ◆日出ヶ岳

- ・山頂部分は冷たく吹き上げるような突風と風に巻き上げられるように横なぶりに降る雨のため、平成 14 年の秋の調査時に比べて利用者は非常に少なかった。
- ・それでも秋の紅葉期のためか、まばらではあるが常時利用者が登ってきて、今年新しく整備された展望小屋で雨風をしのぎながら 5 分～10 分程度の短い休憩を取って下山していく利用行動が観察された。
- ・小屋で食事を取るグループが数組見られたが、そのうち午前中の早い時間に来訪した 3 グループでコンロの使用が確認された。



展望台の 1 階で雨風をしのぐ利用者



### (3) 10月18日観察調査結果概要

調査日は、紅葉シーズンのピーク調査として設定した。当日は午前中は時折霧が発生する肌寒い天気であったが、午後からは日が射す時間が多い曇混じりの晴天であった。時期的に紅葉の適期であったこと、また1週前の休日の天候が悪かったことから、人出はほぼ今秋のピークと言えるものであったと考えられる。

#### ◆牛石ヶ原

- ・10時30分から15時までの調査時間における通行は述べ2,200人ほどみられた。尾鷲辻→大蛇ヶ原方面の通行は1時～1時30分がピーク、逆に大蛇ヶ原→尾鷲辻方面のピークは1時間遅れの2時～2時30分であった。また、ピーク時には80名程度の滞留があり、通行者が通りにくい時間帯も見られた。
- ・平成14年度秋の調査では歩道外を歩く利用者やササ原に入って休憩する利用者かなりの数みられたが、今回の調査ではこのような課題行動は比較的少なかったが理由については不明である。
- ・多くの利用者は神武天皇像前で一旦足を止め、説明版を読んだり記念写真を撮ったり、団体の後続の待合の場に利用されたりしていた。休憩をとる場合は、石張り舗装の端部の段差が発生している箇所での休憩が多く、ロープの外で休憩を取るグループは少なかった。



多くの利用者は神武天皇像前で立ち止まる



神武天皇像前



写真撮影のために歩道外へ立ち入る利用者  
(裸地部からササ原まで立ち入る利用者は稀)



石張り舗装の段差に腰掛ける利用者が多くみられた



#### ◆日出ヶ岳

- ・午前 10 時半頃より急激に来訪者が増加し始め、以降 14 時頃までは 30 分あたり 100~200 名の入込みと退出がみられ、かなりの混雑状況が続いた。
- ・ピークは 11 時半~13 時の間で展望台を含む山頂部分に 100~150 人の利用者が同時に滞留する状況が続いた。また、今年新たに整備された展望台は常に 10~30 人の利用者がみられ、団体が登ってきたときには一時的に 40 人ほどが同時滞在する状況も発生した。
- ・多くの利用者の滞在時間はそれほど長くなく、展望台から展望を眺めたり、記念撮影をして 10 分程度で下山する利用者が多く見られた。一方で、展望台周囲に設置された丸太ベンチに座ったり、ごさを敷いて座って食事等、比較的長時間休憩を取る利用者も多く見られた。
- ・平成 14 年度調査時に確認されたような歩道外へ立ち入ったの休憩、展望、遠景写真などの課題行動がみられる頻度はかなり減少しており、今年新たに整備された丸太ベンチやロープ、制札の効果が大きいものと考えられる。ただし、完全にこれらの課題行動を防ぎ切れてはならずピーク時には若干の課題行動が確認された。
- ・また、10 月 11 日と比較すると利用人数の割にコンロの利用者が少ないこと、展望台の 1 階部分の利用者が少ないことなどの違いが見られたが、天候の違いや利用者の密度の違いによるものと考えられる。



ピーク時の展望台の状況



山頂の利用者の状況



新たに整備されたロープ等により歩道外への立入りは稀



【参考】 昨年の状況：写真右は歩道外を歩く利用者





山頂への木階段は常に多く人の往来がみられた



ロープの張替え、制札の整備にも関わらずピーク時には歩道外へ立入る利用者が見られた

#### ◆ナゴヤ谷

- ・午前中は10時頃をピークに駐車場→七ツ池方面へ通過する利用者が多く、昼になると一旦利用者が減少し、周囲に全く人影がない時間帯も多くなった。13時半頃になると逆に七ツ池→駐車場方面へ帰る利用者が見られはじめ、14時半～15時半が帰る利用者のピークとなった。
- ・ナゴヤ谷は西大台の中では明るく開けたポイントであるが、ここで長時間の休憩を取る利用者は少なく、西大台利用者にとって開拓分岐や展望台への通過点の小休憩ポイントの位置づけにあると考えられる。
- ・利用者層は中高年の夫婦や2～3人のグループが多いが、中高年の男性1人で訪れて写真撮影等をする利用者も比較的多く見られた。20人以上の団体は計4組ほど通過したが、ちょうど昼頃に来訪した団体はここを昼食休憩の場としていた。



紅葉シーズンのピーク時であるが人影が全く見られない時間帯も多い



昼頃来訪した団体はここで昼食休憩をとっていた